

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772001869		
法人名	みとうメディカル株式会社		
事業所名	みとうグループホーム長居 (2階)		
所在地	大阪市 住吉区 長居西 3-6-21		
自己評価作成日	平成23年2月17日	評価結果市町村受理日	平成23年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○家庭的な環境で入居者様一人ひとりの、その人らしい生活を維持し、御本人様、御家族様より「ここでよかった。」と言っていたいただける環境、支援を全職員で目指しています。</p> <p>○御本人様、御家族様の要望、相談をその日のうちに迅速に対応させていただいています。</p> <p>○代表者は入居者様とのコミュニケーションを第一に考え全職員に徹底させています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年、管理者に新しく抜擢された若い男性の管理者が、自分の思いを持って熱く取り組んでいる事業所である。交代の影響をなくし、以前にもまして職員のチームワークを良くし、皆でやる姿勢を打ち出し、全てにおいて管理は自らが率先して介護サービスに取り組んでいる。一方、職員は家族の訪問を心から喜んで歓迎し、利用者の最近の様子を仔細に渡って報告していることが家族にも評価されている。また、色々な場所に緑を配置したり、屋上の庭園など設備面の充実は、高齢者であり認知症を持つ利用者に居心地の良い空間で過ごしてもらいたいという、事業所の温かい姿勢を感じる事が出来る。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「地域に愛され信頼されるホームを目指します。家庭的な環境と地域住民との交流の下で尊厳あるその人らしい生活を目指します」と掲げ、毎朝職員が唱和を行い共有し実績に向け努力しています。	利用者がいつまでも住みなれた場所で暮して行ける様に、理念の中に「地域に愛され信頼されるホームを目指し・・・」という表現を入れ、事業所内に掲示して、管理者と職員が理念の実現に向けて努力している様子が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパー等で入居者様と買い物をしたり、地域の行事、お祭りや歳末夜警の参加により、住民の方々との好意的に交流を図っています。	ホームの行事の案内を出すと共に、地域の行事には出来るだけ事業所から参加するようにして、相互の交流を行っている。毎日の暮らしでは、近隣住民との接触を図るように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設で講師を招き「鬱」「アルツハイマー型認知症」等の講演を行い、地域の方にも参加して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様代表の方、地域の代表の方に参加して頂き、行事内容を写真やホーム便りを活用し報告しています。又、事故・ヒヤリハットの報告を行い、具体的な意見、支援を頂き、今後のサービス向上に繋げています。	運営推進会議には町内会や地域福祉推進の代表など幅広いメンバーが登録されて開催されている。地域との交流や運営に関する意見交換が行われており、事業所の運営に活かすことが出来ている。	運営推進会議は認知症への理解や介護への地域の理解を深める機会と捉えて、更なる活用が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で地域包括支援センターに参加して頂き、年に一度生活相談員の訪問時に現状報告を行っています。又、大阪市グループホーム協議会に参加しています。骨折等の事故があった場合、報告しています。	行政の担当窓口とは、事業所の課題や現状について報告や相談をする関係が構築されている。他のグループホームとの交流も取組みが始まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員が理解、認識する為、研修及びマニュアルの回覧を行い周知徹底に努め、家族様の要望による施錠は、弊書を説明し同意書を頂いている。希望時は、職員同行の外出出来る様に取り組んでいる。	1階にある玄関は安全を優先して施錠しているが、2階3階の各ユニットは空間も余裕があり閉塞感を感じられない。外出意向のある利用者には職員が気付き、一緒に外へ出るなどして、気持ちが落ち着くまで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内容を理解し認識する為、マニュアルの回覧や講習場を設け周知徹底に努めています。また入所前より家族様、本人様と面談行い虐待等の可能性を早期に発見出来る様にしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修や管理者研修で日常生活支援事業・成年後見人制度について学び、社内回覧を行い制度について学ぶ場を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず施設見学をして頂き、理念や方針を重要事項説明書や運営規定を用意して理解・納得して頂くまで説明を行っています。個々の家族様、本人様に合わせて柔軟に取り組んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・相談の連絡先、意見箱を設置している。面会時には必ずサービスに関する聴き取りに努めています。運営推進会議には、利用者様や家族様の参加にて指示を頂いています。	家族の訪問時には職員が明るく対応して、家族が要望や相談を出しやすいような雰囲気作りを心掛けている。管理者自らお茶を出して家族の来訪を歓迎している様子を見ることが出来た。	管理者の交代を気にされている家族もあると考えて、新任管理者としては家族とのコミュニケーションづくりも大切である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての話し合いは代表者や管理者だけでなく全職員で臨時ミーティングを開き取り組むとともに、社内メールを活用し意見交換を行っています。	新任の管理者は自分から率先して行動して、チームワークづくりに努力している様子が伝わってくる。職員は明るくイキイキとした雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者より個々の勤務状況の聞き取りを行い給与水準、勤務時間等の面談を行う。会社全体としては研修の場を設けスキルアップに繋がる事を推進しています。		
		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修日程は全職員に回覧でき受講出来る様にしている。又、受講した社内社外研修は、報告書を提出し全職員が回覧し内容を確認し捺印を行っている。学校に通いながらの勤務も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はこの地域の認定調査員であり事業所も社会福祉協議会の老人施設部会、グループホームネットワークにも参加しておりサービスの向上に向けた取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の不安ごとや求めている事を時間を掛け話し合い、御本人様が納得され、より良い信頼関係を築ける様に心掛けている。入居後も環境変化に戸惑わない様、御自宅で使用していた物を使用しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安事や求めている事を話し合いそれぞれの思いを理解できる様に努め、ホーム見学等頂き御本人様及び家族様との信頼関係を築くように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と家族様の実情を知り「今」何を望んでいるか、何をしなければならないか、出来る事は何かを考え支援出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の個性、時間を大切に出来る事の共有を心掛け入居者同士、職員が自然と一つの輪になるよう、ともに笑い喜べる環境作りに取り組み、入居者様に尊敬の念を持って接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様の希望を御家族様と相談し意向をふまえ今迄とおりの生活環境や家族関係を保ち双方の支援が出来る様に勤めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活環境を変えないように意識を持ち、日々どのようなリズムで過ごされていたかを伺い、行きつけの商店での買い物や外出等、個別に対応しています。	新しい暮らしが始まって、今までの暮らしの続きとして利用者の人とのつながりや、行きつけの店などを大事にするケアを家族と相談しながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	個々の出来る事を把握・理解しともに楽しみ や喜びを持ちながら助け合い生活出来る様 に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御利用者様の御家族様との関係を断ち切ら ない付き合いを心がけ、行事、イベント等 には一筆添えての案内・招待状を送っていま す。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	これまでの生活環境を把握し意向を汲み、 実現困難であれば、どのように援助できる か考え、どのような事に喜びを感じ、新たに 感心を持てるものはないかを全ての職員が 考え、意見や情報の交換に努めています。	利用者本人の好きな事や得意な事、嫌な事 などを把握して、ここでの新しい暮らしをどう 過したいかに配慮しながら利用者への支援 を心掛けている。職員同志の情報交換も頻 繁に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	御本人、御家族から今までの生活歴を聴 き、その人の望む環境や生活スタイルを把 握し、それが続けられるように援助し、常に 相談、意見交換を行っています。		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を観察し把握、 新しい発見や変化がないかを気にかけてい ます。感じた事を話し合い、情報交換する場 を設け、よりよいケアに結び付けています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人様の望むケアが出来る様、喜びある生 活をして頂ける様、介護計画を立て、アセス メントやモニタリングを行っている。状況や様 子に変化が見られる時は御家族とも相談 し、適切な対応が出来る様取り組んでいま す。	利用者の介護計画書の作成、見直しに当 たっては、職員同士が意見を出し合い、家族 の要望や主治医のアドバイスを考慮に入れ た計画書を作成している。毎日の生活の中 で利用者をどのように支援するのがベターな のかという考えで支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを実施時に御本人様の表情、発言に注 意をはらい個別に記録する事で職員の情報 の共有をはかりより良い介護計画の指針、 見直しに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の融通、外出や宿泊など御本人や御家族の要望に応えられるよう、必要時は他事業所とも連携、協力を得て柔軟に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域商店での買い物や、公共機関、公園などを利用した外出を行い、町会の催しなどにも積極的に参加しています。運営推進会議を通して、地域包括、民生委員、ボランティアの方々との連携を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に往診していただき、体調の変化や異常時には連絡し、指示をいただき対応しています。必要な科目受診などは御本人、御家族と相談のうえ、適切な医療を受けていただけるようにしています。	本人や家族の希望を優先して、以前からのかかりつけ医による診療を支援している。受診状況の記録を取って確実に家族へ伝えていくようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を訪問時や医療連携カンファレンス等でも情報交換を行い、施設内の看護師や訪問看護師との連携を取り、医療支援に取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、出来るだけ早期の退院が出来る様に、御家族様、病院と話し合いを惜しまず、相談し、情報の共有をはかっています。短期間の治療によりストレスの負担軽減を考えた支援に取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	よりよく過ごして頂くために、早い段階から御家族様、主治医、職員での話し合い、御本人様の意見を尊重した対応方針を共有する。状況が変わるたびに支援を再検討し、御本人様の苦痛の軽減、御家族様の心情を考えたケアを心掛けています。	重度化や終末期に関する事業所の対応姿勢や方針については、家族に説明している。対応が必要な場合は、改めて家族の希望を聞き、かかりつけ医とも相談しながら支援を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの周知、外部研修への参加、定期的な器具の点検、急変時の研修、消防署よりのAED講習など、報告書を回覧、捺印し職員への周知徹底により実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下、年2回の昼夜を想定した消防訓練を地域の皆様にもご参加いただき行い、区の危機管理局や地震対策研修会の参加や備蓄品や備品のアドバイスを受け定期的な確認を行っています。	備蓄を含めた防災対策が行われている。避難訓練は夜間も想定して実施されている。万が一の場合には地域の支援も受けられるように働きかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の意思を尊重し人格や誇りを損ねる事の無い様に言葉掛けや対応に注意を払い、プライバシーの確保、秘密保持の徹底を全職員に意識付けています。	職員のトイレ誘導時などの声のかけ方は優しく、利用者のプライドに配慮した内容で行われていた。個人情報の取扱いや管理方法についても職員への徹底がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で御本人様が物事を決め、納得出来る様にひとり一人の立場で考え思いや希望を表せるような言葉掛けをし表情や仕草に注視しながら雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人様の体調やペースに合わせた生活リズムを日々大切に職員は時間に追われる事無く入居者様に寄り添い個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望時、職員付き添い馴染みの理・美容店へいける様支援行い、地域の美容師に訪問して頂く等個別の好みや季節に合った身嗜みが出来る様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を取り入れた献立を手作りで料理しおやつ作り、盛付、片付けを共に行っています。食事は職員も同テーブルを囲み和やかに行っています。定期的なカンファレンスを行い、個々の情報の共有に努めています。	手作りの献立で調理を行い、利用者と職員が一緒になって楽しく食卓を囲んでいる。盛付けや片付けは利用者の能力に応じて協力を促しながら、生活リハビリの大切な場としても活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に個々の食事量、水分量を記入し嚥下状態が悪い入居者様にはきざみ食を提供し、水分にはトロミをつける等、個々に合わせた支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じた口腔ケアを支援し、生活記録へ記入しています。又、定期的に訪問歯科にて専門的な口腔ケア・治療を行っていたり、カンファレンスを行い、指導の下、清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録へ排泄状況を記入し、個々の排泄パターンを把握し必要に応じ声かけを行い、自尊心を傷つけない様に支援しています。	利用者個々に記録された排泄チェック表にてパターンを把握して、タイミングを見て誘導している。自立した快適な排泄習慣がいつまでも維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考え、散歩等の運動、牛乳、ヨーグルト、食物繊維の摂取を促している。主治医との連携による便秘薬の服用にて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望時に、入浴支援を行っています。柚子湯・菖蒲湯等を楽しんで頂き、立位困難な方には、入浴用車椅子を使用し、場合によっては二人介助を行う等、個々の状況に合わせて気持ちよく入浴出来る様に支援しています。	利用者の希望に合うような入浴支援が行われている。拒否がある場合は時間や日を改めて対応している。ゆっくりと落ち着いた入浴が出来るように職員間で相談して季節季節の雰囲気を出すなどの工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が安眠出来る様に居室の温度や明るさの調整を行い、リビングでも休息出来るような和やかな環境作りを心掛け、入居者様の状況に合わせて気持ちよく安眠、休息出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明は職員全員がいつでも回覧出来る場所にあり、主治医による薬の変更は業務日誌、スタッフ連絡帳と二重に記載し職員全員が周知徹底に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活は職員と一緒にして頂き、個々の生活歴にあわせ、趣味や外出等、楽しみ事が日常的に継続出来る様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出希望に添って、普段の会話の中から行ってみたい場所を計画し、家族様とも相談行いボランティアの方々にも協力頂き楽しく安全に外出出来る様に支援しています。	気分転換を含めた散歩や季節の行事による外出、遠足など外出の機会を多く作っている。ボランティア活動の受け入るも多く、フラダンスや尺八演奏などがあり利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と相談の上、御本人様の納得される額を所持して頂いています。付き添いで金銭管理の支援をさせて頂き、トラブルが未然に防げる様にすると共に御家族様へ報告行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は穏やかに過ごして頂く大切な方法と考え、事務所の電話は、希望時に使用して頂き、プライバシー保護、意思尊重に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分にはソファーや長椅子を置きいつでも寛いで頂けるようにし、屋上にもテーブルや椅子を置き、季節を肌で感じて頂ける様努めています。	利用者が落ち着いて過ごせるような配慮が感じられる。適度に一人になれる場所の確保、屋上の菜園や、ウッドデッキの配置、季節を感じる植物があり、くつろげる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部にはソファーや長椅子を置き寛いで気のあった利用者様同士ゆっくりと過ごせ、リビングでは席を隣同士にする等、工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用されていた物を持参して頂き、御自宅とのギャップを感じさせない様に、御家族様と相談し支援させて頂いています。	居室には利用者が以前から使っていたと思われるような、家具や写真が配置され、夫々の利用者ごとに落ち着いて過せる部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわからない入居者様には遠くから分かる様に表札を掲げ、足元が不安定な方には転倒のないように、家族様、ご本人様と相談の上、履きやすい靴を使用させて頂き常に付き添いを行っています。		